

地域連携看護学実践研究センター（JANP センター）

2023 年度報告書

目 次

1. 巻頭言	1
2. 運営委員会報告	2
3. 部門報告	
1) みんなの活動部門	11
2) みんなのまなび場部門	14
3) みんなの保健室部門	17
4) グループ報告	
(1) ニーズ・リソース・マッチンググループ	22
(2) 広報グループ	26
4. その他	
1) プレコンセプションケア	30
2) 学生応援フードパントリー調布	34

地域連携看護学実践研究センター 2023 年度報告書の発行に寄せて

看護学科長 北 素子

地域の住民が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられる環境を作り上げるために、団塊世代が後期高齢者となる 2025 年度以降を見据え、地域包括ケアシステムの整備が進んでいます。大学はあらゆる世代の健やかな暮らしを支える社会環境のひとつに位置づき、その地域の「知の拠点」として社会貢献することが求められています。これらを背景として JANP センターは、2018 年国領キャンパスに、地域住民の健康と生きる力を看護の力で支えること、そして地域を舞台とし、看護学の発展とヘルスケアの質の向上を目的とした教育、研究、臨床ケアの統合の場を備えることを目指して設立されました。

JANP センターの活動は、開設以来の 2 つ目の転換点を迎え、2023 年度から明確に新たな第 3 段階に移行しています。1 つ目の転換点は、2020 年からはじまった新型コロナウイルス感染症の拡大でした。初代センター長の佐藤紀子先生をリーダーとし、調布市大学プラットフォームとの連携により、近隣大学と協定を結びながら順調に 3 部門の活動が発展しようとしていた矢先の事でした。そこから始まった 3 年間は、おかれた特殊な状況下でその使命を果たすべく、途切れることなく、今できること、今やらなくてはならないこと、今しかできないことへの取り組みが続けられました。新人移行期支援、遠隔での学び場研修会など、コロナ禍だからこその活動を展開したのが第 2 段階でした。そして 2022 年度から 2 代目となる高橋衣センター長を迎え、第 3 段階の活動がスタートしています。「調布市・狛江市在住・在勤者のヘルスリテラシー・QOL・健康行動についての横断調査」を行い、若い世代のヘルスリテラシーの課題が明らかとなったことから、JANP センターの中心となる活動テーマを「プレコンセプションケア」と定め、地域の中核病院である第三病院の健康推進センターと連携し未来を担う若者を支えるために、“プレコンセプションケアを通じて地域がつながる”ことを目指し活動が開始されています。

JANP センターを母体とし、看護学科教員のみならず看護専門学校の教員、そして附属病院の看護師・医師、さらには地域の専門職や住民が繋がって新しく始まった活動が、大きく発展していくことを願います。

JANP センターの活動を率いてくださる高橋衣新センター長、3 つの部門の活動と 2 つのグループ活動を推進してくださっているメンバーの皆様、そして活動に参画するすべての教職員、地域の皆さまにこの場を借りて熱いエールを送らせていただきます。

2024 年 8 月吉日

地域連携看護学実践研究センター運営委員会

1. 委員会構成

委員長：高橋 衣

委員：嶋澤順子、梶井文子、大橋十也、松永佳子、清水由美子、佐竹澄子、志村友理、山本伊都子、務臺理恵子、海老原樹恵、田上友祈子、中村英輝、花岡一成(総合医療支援センター)、和気江利子(総合医療支援センター)、加邊隆子(第三看護専門学校)、島崎崇史(環境保健医学)

オブザーバー：北 素子看護学科長、佐藤紀子看護学専攻長

学事課：高橋実貴雄、佐藤裕子

2. 開催数

- 1) 運営委員会 5回
- 2) コアメンバー会議 6回

3. 目的

東京慈恵会医科大学看護学実践研究センターの業務が、センターの規定に沿って、適切かつ円滑に推進されることを目的とする。具体的には、看護学科および看護学専攻をはじめとする看護学教育・研究機関、附属病院、地域住民、地方自治体、地域の保健医療福祉機関が連携し、地域住民の生きる力を看護の力で支える活動を組織的に展開することを目的としている。

4. 活動目標

運営会議・コアメンバー会議を計画的に設定し、関連事項の報告を共有し活動を推進していく。JANP センターとしての活動テーマと目的を定め、その達成に向けて活動を推進する。調布市・狛江市在住・在勤者を対象として、ヘルスリテラシー・QOL・健康行動についての横断調査を実施し、JANP センターの活動テーマを明らかにし、各部門の活動を推進していく。また、慈恵第三健康推進センターと連携しつつ、プレコンセプションケアを推進し、3部門の活動に生かしていけるよう計画的に活動内容を検討していく。

1) みんなの活動

- (1) 他部門の「みんなの保健室」「みんなの学び場」、「ニーズ・リソースマッチング」との連携を図り、活動の具体的な計画を立て、実施・評価する。
- (2) ポストコロナ状況下で、学生の科目内・科目外のボランティア活動を近隣地域と連携しながら、安全に実施できるように支援する。(通年)
- (3) 調布市市民活動支援センター、狛江市市民活動支援センターとの連携を図れるように担当者を決め、計画を立案し、実施・評価する。
- (4) 教員の社会貢献活動を促進し、把握等をふくめた管理方法について修正など仕組みの見直しを行う。

2) みんなの学び場

- (1) 地域住民に向けて健康や医療に関する情報発信を行うとともに学びの場を提供する。
- (2) 保健医療福祉専門職のニーズに応える情報発信や学びの支援を行う。

(3) 教員の看護実践、研究の場としてまなび場部門が機能する。

3) みんなの保健室

保健室を安定的に開催できる場において、地域住民や市関係者と協働しながら健康相談の場を継続して開催する。開催は通年とし、可能な限り看護学科授業の一環として実施する

4) ニーズ・リソース・マッチンググループ

(1) 調布市・狛江市在住・在勤者のヘルスリテラシー・QOL・健康行動についての横断調査が3部門の活動に生かしていけるよう計画的に調査を進めていく必要がある。

(2) 必要時、教員が JANP センターのフィールドを活用して研究活動を推進していくための方策を検討していく。

(3) 必要時、キャリアサポートステーションと連携して、卒業生が持っている専門的な知識と活動を把握して、三部門に提供する必要性がある。

(4) 臨床と看護学科との交流として、看護学科教員の臨床研修について希望調査を行う。(前期)

(5) その他、三部門が必要とするニーズ調査を実施していく。

5) 広報グループ

(1) 各部門の活動に関する広報物を作成する。

(2) HP のブラッシュアップを図る。

(3) JANP センターの活動を SNS や市報等を通じて広く周知する

(4) JANP センターの今後の広報の在り方を検討し、必要な広報を図る。

5. 点検・評価

1) 現状と課題

会議は隔月で実施し、委員全員が参加する運営委員会と、3部門2グループの責任者と学科長が参加するコアメンバー会議を開催した。コアメンバー会議では各部門と班の活動状況を集約し、運営委員会ではコアメンバー会議の内容を共有し、各部門と班の活動内容を周知するとともに、慈恵第三病院・第三看護専門学校から JANP センター関連事項の報告を共有した。今年度は、調布市・狛江市在住・在勤者のヘルスリテラシー・QOL・健康行動についての横断調査を実施し、若い世代のヘルスリテラシー等の課題が明らかとなった。JANP センターの中心となる活動テーマとして、慈恵第三健康推進センターと連携しつつ、「プレコンセプションケア」と定め、“プレコンセプションケアを通じて地域がつながる”ことを目指し、コアメンバーが中心となって活動を開始した。2023年11月に慈恵大学第三地区（慈恵第三病院看護部、慈恵第三健康推進センター、看護専門学校、看護学科）22名の有志が集い、プレコンセプションケアを提供するために「わたしたちにできること」をテーマに第1回学習会を開催した。2024年3月には「若者の未来を支えるためにできること」をテーマに、調布市、狛江市にある大学の保健センターの臨床心理士、中高等学校の養護教諭、保健センター保健師、地域のクリニックの医師や助産師、ドラッグストアの薬剤師などを対象としたプレコンセプションケアの第2回学習会（交流会）を行った。顔の見える関係の第一歩を踏み出し、「未来を担う若者」をどのように支

えられるかについて深めることができた。

(1) みんなの活動

- ① 目標 1)は、各部門の活動について、教員や学生へのボランティア参加について、e ラーニング内のボランティア掲示板を活用し、随時更新し周知した。それにより学生のボランティア活動の推進につながった。一方で、ボランティア掲示板は、本学の看護部、第三看護専門学校、看護学科が共有して利用できるプラットフォームとなっているため、今年度の市民公開講座の内容を共有するために活用していたが、ボランティア掲示板の主旨には則さない部分があった。今後、e ラーニングを JANP センターの活動を共有するためのリソースとして活用できるか検討していく。
- ② 目標 2)は、看護学科と第三看護専門学校学生へのボランティア活動を推進するために、近隣地域からのボランティア依頼情報を担当者が、延べ 15 回にわたってタイムリーに e ラーニング上の「ボランティア掲示板」とメールで周知した。科目以外でボランティアに参加した学生は、看護学科 2 名（延べ 5 回）、看護専門学校 8 名（延べ 9 回）であった。学生の活動内容は、国領児童館、慈恵ガジュまる教室、慈恵結びの会などであった。今年度よりボランティア活動に参加した学生に対して、ボランティア活動報告証明書を授与した。e ラーニングの情報を活用してボランティアに参加した学生もあり、今後もわかりやすい情報の周知に努める。
- ③ 目標 3)は、みんなの活動から 1 名が調布市市民活動支援センター運営委員になり、毎月の会議に出席した。調布市に JANP センターの活動について紹介するとともに、調布市で開催されるイベントや地域に関する情報を JANP センター運営委員会でも共有した。狛江市市民活動支援センターとは、広報誌を通じたやり取りにとどまったため、今後はさらに連携が図れるように検討していく。
- ④ 目標 4)は、看護学科学生の科目以外の主体的なボランティア活動を促進するために、ボランティア活動証明書を作成し、2024 年 3 月末付けで発行した。東京慈恵会医科大学附属第三病院健康推進センター・狛江市共催の「慈恵ガジュまる教室」へ 10 月 17 日（12 名）、11 月 18 日（12 名）、1 月 27 日（7 名）の 3 回学生と教員がボランティアとして出席した。「みんなの活動」の一つとして、東京慈恵会医科大学附属第三病院認知症疾患医療センターと連携し、「慈恵結びの会」へ 10 月 7 日（1 名）、12 月 16 日（5 名）、3 月 2 日（3 名）の 3 回に教員と看護学科学生がボランティアとして参加した。看護学科教員のボランティア活動の把握については、社会貢献で把握している。引きつづきボランティアを推進しつつ、活動を把握していく。

(2) みんなの学び場

- ① 目標 1)2)は、市民公開講座：小児在宅ケアに関する講演会の開催を以下のように行った。テーマ：医療的ケア児とその家族の生活を支える在宅医療、講師：前田浩利 氏（医療法人財団はるたか会理事長、あおぞら診療所新松戸院長）、日時：2023 年 10 月 28 日（土）14 時～16 時、場所：看護学科 1 階大講堂。

今年度の市民公開講座は、2021 年に医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律（医療的ケア児支援法）が施行されるなど法的な整備が進む中、医療的ケア児が在宅で生活できる社会的な取り組みを学ぶことを目的とした。本講演会は、にじいろスマイルの会（小児在

宅ケア)の活動の一環として企画したが、医療的ケア児が地域で生活するには地域共生の観点から住民の理解や協力が欠かせないことから、対象を専門職や支援関係者に限定せず、市民公開講座に位置づけて開催した。

参加者は38名であり、看護師(60%)、医師(20%)の他、地域福祉や発達支援・療育に関わる方、一般市民が含まれていた。参加者アンケートより、小児在宅医療や看護への関与については、10年以上(32%)、5年以上10年未満(21%)など半数以上が小児在宅に関わったことがあったが、関わったことがない(26%)という方もいた。内容については非常に満足(80%)、満足(20%)と参加者全員が満足という回答であった。なお、講演内容は講師の許可を得て録画し、当日参加できなかった関係者が閲覧できるよう配慮した。

さらに、JANPセンター企画によるプレコンセプションケアの取り組みについては、今後地域住民を巻きこんでの展開が想定されることから、11月と3月に開催されたプレコンセプションケア学習会(看護学科教員・第三病院等関係者向けおよび地域関係者向け)にそれぞれまなび場部門メンバーが参加した。

- ② 目標3)は、教員の研究フィールドとしての学び場の活用の検討には至らなかった。ニーズ・リソース・マッチンググループによるニーズ調査結果を踏まえて、次年度に向けて検討することとする。

今年度の市民公開講座は、専門職および一般市民を対象として実施した。周知は公的機関や近隣の医療機関、訪問看護ステーションの他、各種掲示版や電子媒体等により実施したが、参加者数が少なく、課題が残った。参加者の満足度は高かったことから今後も地域住民のニーズをとらえ、期待に応える企画を実施していくことを目指す。また、講演会后、にじいろスマイルの会のメンバーとの意見交換を予定していたが、実施できなかった。次年度以降、あらためて会合を持ち、課題の共有やディスカッションを通じて今後の活動を検討する必要がある。

(3) みんなの保健室

定期開催を以下のように実施した。

- ① 4年生総合実習行政看護コースにおいて「みんなの保健室」を実施

期間：2023年9月20日～9月27日(6日間)

場所：多摩川住宅「みんなの部屋」(多摩川住宅仮店舗：調布市染地3-1-816 A6)

健康相談利用者数：50人*3大学連携看護学交換実習の一環として実施した。

宮崎大学、鹿児島大学各1名の学生が参加。

- ② 多摩川住宅「みんなの部屋」において、健康相談を実施。

月1回の計9回定期開催とした。原則、3週目の金曜日午後の開催とした。利用者は延べ20名であった。

(4) ニーズ・リソース・マッチンググループ

調布市・狛江市在住・在勤者のヘルスリテラシー・QOL・健康行動についての横断調査を進めた。4月の倫理審査へ申請し、承認後8月～9月にデータ収集を進めた。その後10月に分析を進め11月・12月で結果の概要について報告をした。また今回の横断調査について2本の論文化を予定しており、1本については年度内の投稿を目指し進めている。また、臨床と看護学科との交流として、看護学科教員の臨床研修について前期に予定通り希望調査を行った。看護学

科・第三専門学校全教員に対して、教員の専門性や研究活動についてアンケート調査、キャリアサポートステーションと連携、3 部門からのニーズ調査の依頼について今年度活動はなかった。

目標 1) は、調布市・狛江市在住・在勤者のヘルスリテラシー・QOL・健康行動についての横断調査について、現在論文化を進めているが誰が見てもわかりやすく結果を伝えていくことも重要である。そのため、ホームページ掲載用の概要を作成し、地域住民にも広く伝えていくとともに市役所の方など必要時活用できるような横断調査の結果の概要を作成していく。目標 4) は、予定通り実施することができた。目標 2) 3) 5) は、2023 年度に活動はなかったが引き続き必要時活動が実施できるようグループで準備する。

(5) 広報グループ

- ① 各活動内容が決定後、活動に関する広報物を検討し作成する：広報物については、10 月に開催した市民公開講座のフライヤーの作成を行った。みんなの保健室、慈恵結びの会、プレコンセプションケア学習会は、担当者によりフライヤーが作成された。次年度以降も各活動からの依頼に応じて、広報物の作成を検討していく。
- ② JANP センターの HP のブラッシュアップを図る：大学広報委員会において、現在の HP の改訂を行っているため、大学広報委員会と連携を取り、HP 改訂を実施している。従来の HP をリニューアルし、JANP センターの概要説明のページの他に活動内容と実施報告をタイムリーに閲覧できるページに更新していく予定である。
- ③ JANP センターの活動を SNS や市報等を通じ、広く周知する：市民公開講座について、調布市、狛江市の広報誌への掲載依頼、HP への掲載を行った。また、みんなの保健室、慈恵結びの会、プレコンセプションケア学習会のフライヤーの HP への掲載、関係機関への周知を行った。全体的に広報期間が短めであり、特に市民公開講座の広報は周知が行き届かない状況であった。また、慈恵第三健康推進センターと連携したプレコンセプションケア学習会については、実施報告を慈大新聞に投稿し学内、同窓生に周知することができた。
- ④ JANP センターの今後の広報の在り方を検討し、必要な広報を図る：2023 年度は、JANP センターの取り組みとしてニーズ調査やプレコンセプションケア学習会の開催など新たな取り組みも始まった。学内外において、さらに JANP センターの周知が重要であり、JANP センターを周知していくため「ニュースレター」を作成し、配布していくこととした。また、HP の更新とともにタイムリーに情報を発信していくシステムが導入できるように進めていく予定である。

2) 課題と改善策

来年度も同様に、会議は隔月で実施し、委員全員が参加する運営委員会と、3 部門 2 グループの責任者と学科長が参加するコアメンバー会議を開催していく。コアメンバー会議では各部門と班の活動状況を集約し、運営委員会ではコアメンバー会議の内容を共有し、各部門と班の活動内容を周知していく。来年度は、“プレコンセプションケアを通じて地域がつながる”ことをテーマとして、各部門と連携しつつ、学習会で得た地域の参加者とともに、「未来を担う若者」をどのように支えられるか、研究的に計画を立て実践していく。

(1) みんなの活動部門

- ① e ラーニング内の「ボランティア掲示板」の主旨には則さない利用があったことから、ボランティア掲示板の在り方を検討する。
- ② 狛江市市民活動支援センターとのよりよい連携方法について検討する。

(2) みんなのまなび場部門

次年度の市民公開講座については、ニーズ調査結果を踏まえて内容を検討するとともに、周知についても引き続き検討し、広報部門との連携のもとで実施する。また、住民の身近な場所で気軽に学びを得られるようなアウトリーチも視野に入れ、住民のニーズに合った企画を検討する必要がある。

にじいろスマイルの会については、第三病院関係者との連携を強化しながら、あらためて小児在宅ケアに関わるニーズを丁寧に取りながら今後の活動展開について検討する。

(3) みんなの保健室部門

① みんなの保健室の定期開催

多摩川住宅内にある「みんなの部屋」を利用して開催を継続した。COVID19 が 5 類感染症区分に移行したため、感染症対策としての予約制を無くし調布市広報にも開催通知を掲載して実施した。相談件数は 2-6 件であり、多摩川住宅以外からの来室もあった。継続しての来室もあった。相談内容は、定期健康診断結果の確認や定期観察、受診相談などであった。来室数の伸び悩みが課題である。継続来室者対応の一方で、広報の強化、開催場所の開拓、担当者の専門性を活かしたテーマ設定（ミニ健康教室など）といった展開を検討する必要がある。＊「みんなの部屋」は 2024 年 4 月いっぱいまでの利用となる。その後は、多摩川住宅と相談して、各自治会あるいは管理組合が管理する集会室を利用して開催する予定である。

② 2024 年度 活動方針

- a. 目的:住民の生活の場に出向いて健康相談を開催する（通年）。
- b. 活動内容:みんなの保健室を定期開催する。
 - ・ 4 年生総合実習行政看護コースを活動の一環として実施する。
 - ・ 多摩川住宅集会室等を利用した健康相談を実施する。看護学科教員の専門性を活用し、「認知症」「こころの健康」などテーマを提示した相談を募集する。また、少人数が参加する健康講座を開催する。
- c. 調布市、狛江市の活動と協働する。各市からの要請に応じて協働活動を検討する。

(4) ニーズ・リソース・マッチンググループ

- ① 調布市・狛江市在住・在勤者のヘルスリテラシー・QOL・健康行動についての横断調査の論文、ホームページ掲載用の結果の概要版の作成を行っていく。
- ② JANP センターや第三病院の活動の評価を行い、活動が若者の生活の改善や健康意識向上にどのように関わっているかを明らかにしていく。
- ③ 教員が JANP センターのフィールドを活用して研究活動を推進していくための方策を検討していく。
- ④ 必要時、キャリアサポートステーションと連携して、卒業生が持っている専門的な知識と活動を把握して、三部門に提供する。
- ⑤ 必要時、三部門が必要とするニーズ調査を実施していく。

(5) 広報グループ

各活動の広報については、それぞれの担当者と調整しながらフライヤーの作成、配布、調布、粕江地区の広報誌への掲載、HP への掲載等を行っていく。特に次年度は学事課の担当者変更となるため、学事課との密な連携を図る。十分な広報期間が確保できるように、4 月に年間のイベント実施予定に合わせた広報物の作成の目途を確認する。また、HP の更新を迅速に進め、JANP センターのリーフレットと合わせて HP の内容の検討も行う。ニュースレターを継続し、学内外への周知を促進する。

以上



地域連携看護学実践研究センター

(Jikei Academic Nursing Practice for the Community: JANP センター)

慈恵第三健康推進センターと連携した今後の活動へ

地域連携看護学実践研究センターは、2018 年度に「地域住民の生きる力を看護の力で支える」ことを目指して設立された。Academic Nursing Practice は、看護学の発展とヘルスケアの質の向上を目的とし、教育、研究、臨床ケアの意図的な統合を意味しており、国内外の多くの看護系大学で、機能を備え活動している。JANP センターは、慈恵第三病院看護部、慈恵第三健康推進センター、慈恵第三看護専門学校、さらに立地を生かし、調布市・狛江市の自治体、近隣大学、地域住民の皆さん、在宅訪問看護ステーション等の専門職の皆さんと連携し活動している。

JANP センターは、「みんなの活動」「みんなの学び場」「みんなの保健室」の 3 つの事業と、3 部門を支援する「ニーズ・リソースマッチンググループ」「広報グループ」からなる。設立してまもなくコロナ禍となり、JANP センターの活動は、医療を支える看護職とその子ども達、新人看護師への支援を中心に行った(同誌 vol137. で報告)。設立以来、「みんなの学び場」では、公開講座、医療的ケア児の対策支援として“にじいろスマイルの会”のスタート、コロナ禍では紙媒体やオンデマンドでのニュース配信を行い、2023 年度になり対面での公開講座を再開した。「みんなの保健室」では、多摩川住宅内の施設を利用して“みんなの保健室”を継続的に開催し、2023 年には、鹿児島大学、宮崎大学、本学の 3 大学連携交換実習を行った。「みんなの活動」では、慈恵第三病院認知症疾患医療センターと連携し継続的に活動を行うとともに、教員・学生のボランティア活動の推進を行っている。

▶JHOP センターと JANP センターとの連携した活動の必要性

東京慈恵会医科大学附属第三病院は、現在、新病院リニューアルが行われている。新病院の基本理念は、「シームレスな医療をもとに地域社会に貢献する、機動性と機能性の高い基幹病院」である。すでに「慈恵第三健康推進センター」(Jikei Health Optimal Promotion Centre: JHOP センター)を開設し、狛江市・調布市と連携しながら、健康推進に向けての取り組みを実践し、「慈恵ガジュまる教室」として、健康教室や健康相談窓口を設置して、市民のための活動を開始している。JANP センターの理念である「地域住民の生きる力を看護の力で支える」ことは、JHOP センターとの連携によって、医療・看護・教育・研究という視点で地域社会に貢献することとなり、さらに拡大され则认为る。

▶「慈恵第三健康推進センター」と連携した若者世代のヘルスリテラシーへの支援

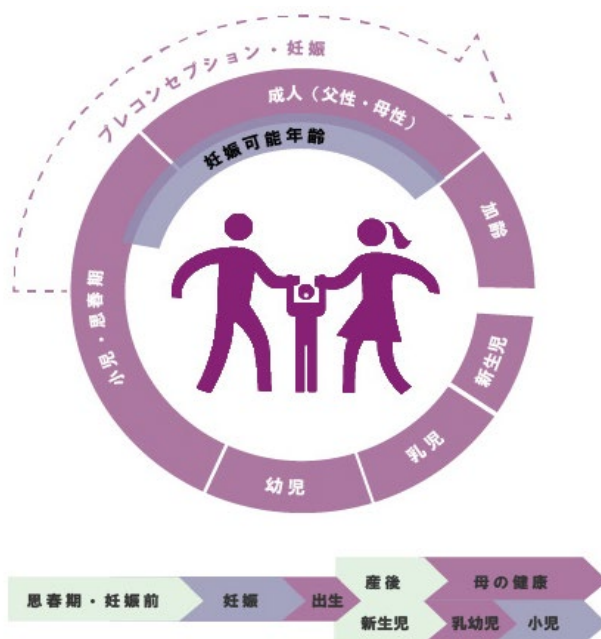
今年度、ニーズ・リソースマッチンググループを中心として、「調布市・狛江市在住・在勤者のヘルスリテラシー、健康行動、QOL の横断調査」を行った。ヘルスリテラシーとは、健康や医療に関する正しい情報を入手し、理解して活用する能力のことである。コロナ禍を経て改めて、調布市・狛江市在住・在勤者の 18 歳以上の方を対象に調査研究を実施した。この調査研究の結果から明らかになった各世代の特徴と課題を踏まえつつ、2024 年度の活動に反映していく予定である。調査の結果は、論文として報告する予定であるが、若者世代のヘルスリテラシーに注目する必要性が示唆された。

若者世代のヘルスリテラシーに注目する活動として、慈恵第三健康推進センターからのプレコンセプションケアに関する支援の提案がなされた。プレコンセプションケアとは、女性やカップルの健康、そして次世代を担う子どもたちの健康をより良くすることをゴールにしている。2021 年には成育基本法に基づく成育基本方針として、母体となる女性、さらにカップルが心身の健康

のために生活を見直し、家族計画、医療・薬物療法の影響への配慮、感染予防、喫煙・栄養・体重等の日常の健康管理が行えることを目指す支援として位置づけられている。東京都もプレコンセプションケアに注目し、東京ユースヘルスケア推進事業として「TOKYO プレコンゼミ」を展開している。

連携活動の第一歩として、「プレコンセプションケアを通じて地域がつながる」ことを目指し2023年11月に慈恵大学第三地区(慈恵第三健康推進センター, 慈恵第三病院看護部, 慈恵第三看護専門学校)22名の有志が集い、〔プレコンセプションケアを提供するために、わたしたちにできること〕をテーマに学習会を開催した(写真)。2024年3月には慈恵大学第三地区メンバーに加え、狛江市、調布市の行政、医師会、教育機関(小・中・高・大学)の方々と学習会を計画している。

今後も慈恵第三健康推進センター(JHOPセンター)と地域連携看護学実践研究センター(JANPセンター)と連携しつつ、社会のニーズと課題を把握しながら、「地域住民の生きる力を看護の力で支える」活動を継続していきたい。



生涯のうちのプレコンセプションケアの位置づけ
(WHO・成育医療研究センター関連サイトから引用)

みんなの活動部門 活動報告

1. 部門構成

部門長 : 梶井文子

メンバー : 佐竹澄子、務臺理恵子、海老原樹恵、松永佳子、加邊隆子

学事課 : 高橋実貴雄

2. 部門会議の開催数(日時)

ZOOM・対面会議 : 4月18日(10:30-11:25)、2月26日(11:00-12:00)、
3月15日(10:00-11:00)

メール開催 : 15回

3. 活動の目的

今後の地域の社会資源としての人材育成のための様々なボランティア活動の拠点となるボランティアハブステーションとしての機能の確立に向けて、学生や教員が、様々な住民・専門職等の支援活動に主体的にボランティア参加し社会貢献することを支援するとともに運用システムを作成する。

4. 活動目標

- 1) 他部門の「みんなの保健室」「みんなの学び場」、「ニーズ・リソースマッチング」との連携を図り、活動の具体的な計画を立て、実施・評価する。
- 2) ポストコロナ状況下で、学生の科目内・科目外のボランティア活動を近隣地域と連携しながら、安全に実施できるように支援する。(通年)
- 3) 調布市市民活動支援センター、狛江市市民活動支援センターとの連携を図れるように担当者を決め、計画を立案し、実施・評価する。
- 4) 教員の社会貢献活動を促進し、把握等をふくめた管理方法について修正など仕組みの見直しを行う。

5. 点検・評価

1) 活動内容と課題

- (1) 他部門の「みんなの保健室」「みんなの学び場」、「ニーズ・リソースマッチング」との連携を図り、活動の具体的な計画を立て、実施・評価する。

各部門の活動について、教員や学生へのボランティア参加について、eラーニング内のボランティア掲示板を活用することとし、随時更新し周知した。それにより学生のボランティア活動の推進につながったと考えられる。

一方で、ボランティア掲示板は、本学の看護部、第三看護専門学校、看護学科が共有して利用できるプラットフォームとなっているため、今年度の市民公開講座の内容を共有するために活用していた。しかしながら、ボランティア掲示板の主旨には則さない部分があった。今後、eラーニングをJANPセンターの活動を共有するためのリソースとして活用できるか検討していく。

- (2) ポストコロナ状況下で、学生の科目内・科目外のボランティア活動を近隣地域と連携しながら、安全に実施できるように支援する。(通年)

看護学科と第三看護専門学校学生へのボランティア活動を推進するために、近隣地域からのボランティア依頼情報を担当者が、延べ15回にわたってタイムリーにeラーニング上の「ボランティア掲示板」とメールで周知した。科目以外でボランティアに参加した学生は、看護学科2名(延べ5回)、看護専門学校8名(延べ9回)であった。学生の活動内容は、国領児童館、慈恵ガジュマル教室、慈恵結びの会などであった。今年度よりボランティア活動に参加した学生に対して、ボランティア活動報告証明書を授与した。eラー

ニングの情報を活用してボランティアに参加した学生もあり、今後もわかりやすい情報の周知に努める。

- (3) 調布市市民活動支援センター、狛江市市民活動支援センターとの連携を図れるように担当を決め、計画を立案し、実施・評価する。

みんなの活動から1名が調布市市民活動支援センター運営委員になり、毎月の会議に出席した。調布市に JANP センターの活動について紹介するとともに、調布市で開催されるイベントや地域に関する情報を JANP センター運営委員会でも共有した。

狛江市市民活動支援センターとは、広報誌を通じたやり取りにとどまったため、今後はさらに連携を図れるように検討していく必要がある。

- (4) 教員の社会貢献活動を促進し、把握等をふくめた管理方法について修正など仕組みの見直しを行う。

看護学科学生の科目以外の主体的なボランティア活動を促進するために、ボランティア活動証明書を作成し、2024年3月末付けで発行した。

東京慈恵会医科大学附属第三病院健康推進センター・狛江市共催の「慈恵ガジュまる教室」へ10月17日（12名）、11月18日（12名）、1月27日（7名）の3回学生と教員がボランティアとして出席した。

「みんなの活動」の一つとして、東京慈恵会医科大学附属第三病院認知症疾患医療センターと連携し実施している「慈恵結びの会」へ10月7日（1名）、12月16日（5名）、3月2日（3名）の3回に教員と看護学科学生がボランティアとして参加した。

看護学科教員のボランティア活動の把握については、社会貢献で把握している。引き続きこの方法で把握する。

2) 改善策

- (1) e ラーニング内の「ボランティア掲示板」の主旨には則さない利用があったことから、ボランティア掲示板のあり方を検討する。
- (2) 狛江市市民活動支援センターとのよりよい連携方法について検討する。

以上



東京慈恵会医科大学第三病院/2023 年度 認知症疾患医療センター 慈恵結びの会



－ 認知症の方とご家族向けのカフェ －

開催日（3回）

①2023 年 10 月 7 日（土）②2023 年 12 月 16 日（土）③ 2024 年 3 月 2 日（土）

各回ともに前半と後半の 2 部構成で、各回の内容は異なります（下記参照）

時間：14 時～16 時 30 分（前半・後半）

会場：①③狛江市役所防災センター4 階 会議室 ②狛江市役所内 4 階会議室

定員（事前予約制）：8 名程度まで **感染予防対策を徹底して行います。**

参加費：**無料**（資料、水引とハーブ、アルコール、スプレー容器、瓶代などの費用の負担は一切ありません）

申込締切日：各回の **1 週間前まで（①9 月 29 日、②12 月 8 日、③2 月 23 日）** にお申し込み下さい

申込み方法

① ファックス：裏面の参加申込書にご記入いただき、03-3488-7452 へ送信してください。

② メール（Jikei.dementia.c@gmail.com）または右のQRコードを読み取り、

氏名、住所、電話番号またはメールアドレス、参加希望日等を入力・送信してください。



後日、主催者よりお電話等で健康状態等の確認と当日のご案内をさせていただきます。

主催：東京慈恵会医科大学 老年看護学 教授 梶井文子（看護師・認知症ケア上級専門士）
認知症疾患医療センター センター委員 細井あゆみ（認知症看護認定看護師）

共催：東京慈恵会医科大学 地域連携看護学実践研究（JANP）センター「みんなの活動」、狛江市

前半：みんなで話しあい（担当：梶井、細井）

日頃の介護の悩みや困りごとを語りあい、解決のための糸口を見つけませんか。医療・看護のプロもご相談にのります。ご希望・ご相談に合わせて、個別に具体的なアドバイスもいたします。

デイサービスに行ったら良いかを悩んでいる方、
デイサービスが自分に合っていないと感じている方
もどうぞ一度ご参加ください。

ご参加をお待ちしています。

後半：季節の植物を楽しむハーブと水引

（担当：水引カフェ主宰の葵ことり、他）

10 月：紅葉

12 月：お正月飾り

3 月：桜



季節の植物を楽しむハーブと水引を簡単に作って、気分転換をしましょう。

みんなのまなび場部門 報告書

1. 部門構成メンバー

部 門 長 清水由美子

メンバー 大橋十也、志村友理、田上友祈子、中村英輝、山本伊都子

第三病院：花岡一成、和気江利子

(敬称略、五十音順)

2. 部門会議の開催数（日時）

1) 会議（対面／Zoom）4回

- ・第1回 2023年5月16日（火）16：05～17：25（対面開催）

主な議題：2023年度活動方針・活動計画

- ・第2回 2023年7月17日（火）15：00～16：00（対面開催）

主な議題：市民公開講座（小児在宅ケア講演会）、にじいろスマイルの会の活動

- ・第3回 2023年10月12日（木）15：00～16：00（Zoom開催）

主な議題：にじいろスマイルの会企画

- ・第4回 2024年3月22日（金）13：00～14：00（対面開催）

主な議題：2023年度活動まとめ、次年度活動方針

- ・その他、メール会議・打ち合わせを適宜実施

3. 活動の目的

- 1) 地域住民のニーズにあった情報を伝達・発信・共有する。
- 2) 地域の保健医療福祉機関で働く専門職にとってためになる情報を伝達・発信・共有する。

4. 2023年度活動目標

- 1) 地域住民に向けて健康や医療に関する情報発信を行うとともに学びの場を提供する。
- 2) 保健医療福祉専門職のニーズに応える情報発信や学びの支援を行う。
- 3) 教員の看護実践、研究の場としてまなび場部門が機能する。

5. 2023年度の活動内容

1) 活動目標1、2について

- (1) 市民公開講座：小児在宅ケアに関する講演会の開催

テーマ：医療的ケア児とその家族の生活を支える在宅医療

講師：前田浩利 氏（医療法人財団はるたか会理事長、あおぞら診療所新松戸院長）

日時：2023年10月28日（土）14時～16時

場所：看護学科1階 大講堂

今年度の市民公開講座は、2021年に医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律（医療的ケア児支援法）が施行されるなど法的な整備が進む中、医療的ケア児が在宅で生活できる社会的な取り組みを学ぶことを目的とした。本講演会は、にじいろスマイルの会（小児在宅ケア）の活動の一環として企画したが、医療的ケア児が地域で生活するには地域共生の観点

から住民の理解や協力が欠かせないことから、対象を専門職や支援関係者に限定せず、市民公開講座に位置づけて開催した。

参加者は38名であり、看護師（60%）、医師（20%）の他、地域福祉や発達支援・療育に関わる方、一般市民が含まれていた。参加者アンケートより、小児在宅医療や看護への関与については、10年以上（32%）、5年以上10年未満（21%）など半数以上が小児在宅に関わったことがあったが、関わったことがない（26%）という方もいた。内容については非常に満足（80%）、満足（20%）と参加者全員が満足という回答であった。

なお、講演内容は講師の許可を得て録画し、当日参加できなかった関係者が視聴できるよう配慮した。

(2) プレコンセプションケア学習会への参加

JANP センター企画によるプレコンセプションケアの取り組みについては、今後地域住民を巻き込んでの展開が想定されることから、11月と3月に開催されたプレコンセプションケア学習会（看護学科教員・第三病院等関係者向けおよび地域関係者向け）にそれぞれまなび場部門メンバーが参加した。

2) 活動目標3について

今年度は教員の研究フィールドとしての学び場の活用の検討には至らなかった。ニーズ・リソース・マッチンググループによるニーズ調査結果を踏まえて、次年度に向けて検討することとする。

6. 点検・評価

1) 現状と課題

今年度の市民公開講座は、専門職および一般市民を対象として実施した。周知は公的機関や近隣の医療機関、訪問看護ステーションの他、各種掲示版や電子媒体等により実施したが、参加者数が少なく、課題が残った。参加者の満足度は高かったことから、今後も地域住民のニーズをとらえ、期待に応える企画を実施していくことを目指す。

また、講演会後、にじいろスマイルの会のメンバーとの意見交換を予定していたが、実施できなかった。次年度以降、あらためて会合を持ち、課題の共有やディスカッションを通じて今後の活動を検討する必要がある。

2) 改善策

次年度の市民公開講座については、ニーズ調査結果を踏まえて内容を検討するとともに、周知についても引き続き検討し、広報部門との連携のもとで実施する。また、住民の身近な場所で気軽に学びを得られるようなアウトリーチも視野に入れ、住民のニーズに合った企画を検討する必要がある。

にじいろスマイルの会については、第三病院関係者との連携を強化しつつ、あらためて小児在宅ケアに関わるニーズを丁寧に拾いながら今後の活動展開について検討する。

以上



JANP Center 東京慈恵会医科大学 地域連携看護学実践研究センター

Jikei Academic Nursing Practice Center for the Community

【市民公開講座】

-医療的ケア児とその家族の生活を支える在宅医療-

日時：2023年10月28日（土） 14：00 — 16：00
受付開始 13：30 —

講師：前田浩利先生

医療法人財団はるたか会 理事長 あおぞら診療所新松戸 院長

会場：東京慈恵会医科大学医学部看護学科1階大講堂

小児在宅医療のフロントを切り開いてこられた前田先生より、
2021年に施行された「医療的ケア児支援法」をはじめとする法的整備など、医療的ケア児が在宅で生活できる社会的な取り組み
についてご講演いただきます



【申し込み方法】



参加費無料
どなたでもご参加いただけます

QRコードよりお申し込みください
申し込み締め切り 10月21日（土）



京王線国領駅徒歩15分 小田急線狛江駅バス10分

【問い合わせ先】

東京慈恵会医科大学医学部看護学科

〒182-8570 東京都調布市国領町8-3-1

Tel:03-3430-8686（内線：2103）, Email: janp@jikei.ac.jp

みんなの保健室部門 活動報告 2023 年度

1. 部門構成メンバー

嶋澤順子（部門長）、清水由美子、島崎崇史

2. 部門会議の開催数(日時)

メールでの確認のみ。

3. 活動の目的

地域における健康予防活動の一環として、プライマリレベルの相談を受け、必要な支援につなぐ機能を果たす。

具体的には、常設あるいは出張で行うヘルスチェックの機会を通し、住民自身の健康に関する自己管理、相談（健康に関するよろず相談）の場を持ち、情報収集内容に基づき、保健医療福祉関係者と連携し、地域の一民間組織として、地域包括ケアシステムに貢献することを目指す。また、活動および活動成果を、学生の地域連携能力（ディプロマ・ポリシー4）修得に活用する。

活動対象者はすべての住民(子育て中の養育者、勤労者、高齢者等)である。また、活動参加者は、看護学科教員、看護学科学生、医学科学生、附属第三全病院教職員である。

4. 活動目標

住民の生活の場に出向いて健康相談を開催する（通年）。

5. 点検・評価

1) 活動内容

(1) 定期開催

①4 年生総合実習行政看護コースにおいて「みんなの保健室」を実施

期間：2023 年 9 月 20 日～9 月 27 日（6 日間）

場所：多摩川住宅「みんなの部屋」（多摩川住宅仮店舗：調布市染地 3-1-816 A6）

健康相談利用者数：50 人

＊3 大学連携看護学交換実習の一環として実施した。宮崎大学、鹿児島大学各 1 名の学生が参加。

②多摩川住宅「みんなの部屋」において、健康相談を実施。

月 1 回の定期開催とした。原則、3 週目の金曜日午後の開催とした。

期日および利用者：表のとおり（次頁）

2) 課題、改善策

(1) みんなの保健室の定期開催

多摩川住宅内にある「みんなの部屋」を利用して開催を継続した。COVID19 が 5 類感染症区分に移行したため、感染症対策としての予約制を無くし調布市広報にも開催通知を掲載して実施した。相談件数は 2-6 件であり、多摩川住宅以外からの来室もあった。継続しての来室もあった。相談内容は、定期健康診断結果の確認や定期観察、受診相談などであった。来室数の伸び悩みが課題である。継続来室者対応の一方で、広報の強化、開催場所の開拓、担当者の専門性を活かしたテーマ設定（ミニ健康教室など）といった展開を検討する必要がある。

＊「みんなの部屋」は 2024 年 4 月いっぱいまでの利用となる。その後は、多摩川住宅と相談して、各自治会あるいは管理組合が管理する集会室を利用して開催する予定である。

6. 2024 年度 活動方針

1) 目的

住民の生活の場に出向いて健康相談を開催する（通年）。

2) 活動内容

(1) みんなの保健室を定期開催する。

① 4 年生総合実習行政看護コースを活動の一環として実施する。

② 多摩川住宅集会室等を利用した健康相談を実施する。

③ ②において、看護学科教員の専門性を活用し、「認知症」「こころの健康」などテーマを提示した相談を募集する。また、少人数が参加する健康講座を開催する。

(2) 調布市、狛江市の活動と協働する。

各市からの要請に応じて協働活動を検討する。

以上

表. 2023 年度 みんなの保健室定期開催一覧

日程	時間	場所	参加者数	実施内容	備考
4月21日（金）	10:30-12:00	みんなの部屋	4	個別相談・健康チェック	①80代女性・イ、②80代女性・ト、③80代男性・ト、④60代男性・は
5月19日（金）	13:30-15:30	みんなの部屋	2	個別相談・健康チェック	①70代女性・二、②●代女性・ロ
6月16日（金）	13:30-15:30	みんなの部屋	6	個別相談・健康チェック	①80代女性・国領町、②30代女性（＋母）・住宅内、③60代女性・国領町、④80代女性・は、⑤70代女性・染地3、⑥60代女性・ロ
7月28日（金）	13:30-15:30	みんなの部屋	0	個別相談・健康チェック	
10月20日（金）	13:30-15:30	みんなの部屋	2	個別相談・健康チェック	①50代男性・調布市在勤、②60代女性・京王多摩川
11月17日（金）	13:30-15:30	みんなの部屋	—	中止	—
12月15日（金）	13:30-15:30	みんなの部屋	3	個別相談・健康チェック	①80代女性・ロ、②60代男性・調布市、③80代男性・ロ
2024年 1月19日（金）	13:30-15:30	みんなの部屋	3	個別相談・健康チェック(握力追加)	①80代女性・ロ（再）、②60代男性・調布市（再）、③80代女性・国領町（再）
3月15日（金）	13:30-15:30	みんなの部屋			
		延べ参加者数	20		※イ、ロ、は、二、トは多摩川住宅



みんなの保健室

ご自身の健康のこと、ご家族の体調のこと、子育てのこと、
介護のことなどお気軽にお話にいらして下さい。

慈恵医大の看護師・助産師・保健師免許をもつ教員や第三病院
の看護師がご相談に応じます。

☆簡単な健康チェックができます

(血圧、体組成測定、血中酸素飽和度、
簡単認知症チェックなど)

申し込み不要
無料

みんなの部屋にいらしたついでに
お立ち寄り下さい

【日時】

日 程	時 間
4月21日(金)	10時30分～12時
5月19日(金)	13時30分～15時30分
6月16日(金)	13時30分～15時30分
7月28日(金)	13時30分～15時30分



【場所】

みんなの部屋(多摩川住宅仮店舗)
調布市染地3-1-816 A6



【お問い合わせ】 東京慈恵会医科大学 地域連携看護学実践研究センター
みんなの保健室部門 メール:jikei-chiiki@jikei.ac.jp

9 月開催

看護学生の実習の一環です

看護師のたまごたちによる



みんなの保健室



慈恵医大、宮崎大学、鹿児島大学の看護学生が“みんなの保健室”を開設します。

簡単健康チェック、体力測定や健康に関する情報コーナーを用意してお待ちしております。学生と一緒に健康・生活についてお話ししてみませんか？

【感染予防対策】慈恵医大のガイドラインに則り開催しますので安心してご参加ください。

簡単健康チェック…体組成、血圧、骨密度、体力測定などを行います！

健康情報コーナー…食事や運動、生活習慣、に関する展示や資料を配布します！

★申し込み不要・どなたでも参加できます

日時

9/20 水 午後1～3 時

9/21 木 午後1～3 時

9/22 金 午後1～3 時

9/25 月 午後1～3 時

9/26 火 午後1～3 時

9/27 水 午後1～3 時

会場：多摩川住宅 みんなの部屋
(調布市染地 3-1-816 A6)

【問い合わせ先】

東京慈恵会医科大学医学部看護学科

嶋澤 03(3480)1151 内線 2884

主催 東京慈恵会医科大学医学部看護学科地域看護学 協力 東京慈恵会医科大学 JANP センター



10月から開催

東京慈恵会医科大学 地域連携看護学実践研究センター
みんなの保健室部門



みんなの保健室

ご自身の健康のこと、ご家族の体調のこと、子育てのこと、
介護のことなどお気軽にお話にいらして下さい。

慈恵医大の看護師・助産師・保健師免許をもつ教員や第三病院
の看護師がご相談に応じます。

☆簡単な健康チェックができます

(血圧、体組成測定、血中酸素飽和度、
簡単認知症チェックなど)

申し込み不要
無料

みんなの部屋にいらしたついでに
お立ち寄り下さい

【日時】	日 程	時 間
 	10月20日(金)	13時30分～15時30分
	11月17日(金)	13時30分～15時30分
	12月15日(金)	13時30分～15時30分
	1月19日(金)	13時30分～15時30分
	3月15日(金)	13時30分～15時30分



【場所】 みんなの部屋(多摩川住宅仮店舗)
調布市染地3-1-816 A6



【お問い合わせ】 東京慈恵会医科大学 地域連携看護学実践研究センター
みんなの保健室部門 メール: jikei-chiiki@jikei.ac.jp

2023 年度 ニーズ・リソース・マッチンググループ活動報告書

1. 部門構成メンバー

志村友理、大橋十也、田上友祈子、島崎崇史、中村英輝

2. 部門会議の開催数

開催日時： 5 月 16 日（火）10:00－12:00
10 月 12 日（木）13:00－15:00
12 月 26 日（火）16:00－17:00
2 月 8 日（木）10:00－11:00
2 月 16 日（金）13:00－15:00
3 月 6 日（水）15:00－16:00

3. 活動の目的

各部門の活動が、地域の住民や多職種のニーズを反映した活動となるように、地域住民や多職種のニーズを調査し、基礎資料を作成する。また、JANP センターにおいて、教員の研究を活かし発展できるように、ニーズとリソースをマッチングして推進する。

4. 2023 年度活動目標

- 1) 調布市・狛江市在住・在勤者のヘルスリテラシー・QOL・健康行動についての横断調査が 3 部門の活動に生かしていけるよう計画的に調査を進めていく必要がある。
- 2) 必要時、教員が JANP センターのフィールドを活用して研究活動を推進していくための方策を検討していく。
- 3) 必要時、キャリアサポートステーションと連携して、卒業生が持っている専門的な知識と活動を把握して、三部門に提供する必要がある。
- 4) 臨床と看護学科との交流として、看護学科教員の臨床研修について希望調査を行う。（前期）
- 5) その他、三部門が必要とするニーズ調査を実施していく。

5. 点検・評価

1) 活動内容

調布市・狛江市在住・在勤者のヘルスリテラシー・QOL・健康行動についての横断調査を進めた。4 月の倫理審査へ申請し、承認後 8 月～9 月にデータ収集を進めた。その後 10 月に分析を進め 11 月・12 月で結果の概要について報告をした。また今回の横断調査について 2 本の論文化を予定しており、1 本については年度内の投稿を目指し進めている。また、臨床と看護学科との交流として、看護学科教員の臨床研修について前期に予定通り希望調査を行った。

看護学科・第三専門学校全教員に対して、教員の専門性や研究活動についてアンケート調査、キャリアサポートステーションと連携、3 部門からのニーズ調査の依頼について今年度活動はなかった。

2) 改善策

活動目標 1) について、調布市・狛江市在住・在勤者のヘルスリテラシー・QOL・健康行動

についての横断調査について、現在論文化を進めているが誰が見てもわかりやすく結果を伝えていくことも重要である。そのため、ホームページ掲載用の概要を作成し、地域住民にも広く伝えていくとともに市役所の方など必要時活用できるような横断調査の結果の概要を作成していく。活動目標 4) については予定通り実施することができた。活動目標 2) 3) 5) については、2023 年度に活動はなかったが引き続き必要時活動が実施できるようグループで準備をしておく。

上記を踏まえ、2024 年度については以下の (1) ～ (5) について活動を行っていく。

- (1) 調布市・狛江市在住・在勤者のヘルスリテラシー・QOL・健康行動についての横断調査の論文化、ホームページ掲載用の結果の概要版の作成を行っていく。
- (2) JANP センターや第三病院の活動の評価を行い、活動が若者の生活の改善や健康意識向上にどのように関わっているかを明らかにしていく。
- (3) 教員が JANP センターのフィールドを活用して研究活動を推進していくための方策を検討していく。
- (4) 必要時、キャリアサポートステーションと連携して、卒業生が持っている専門的な知識と活動を把握して、三部門に提供する。
- (5) 必要時、三部門が必要とするニーズ調査を実施していく。

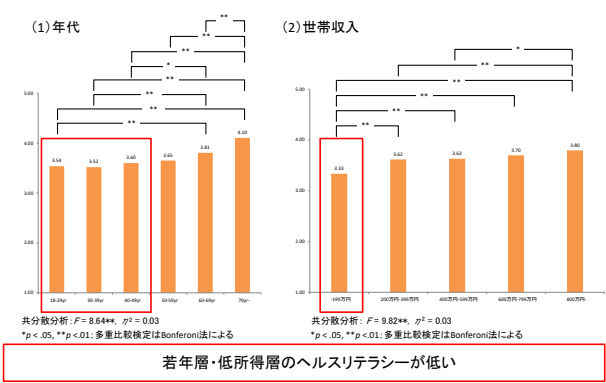
6. 執筆者 志村友理

以上

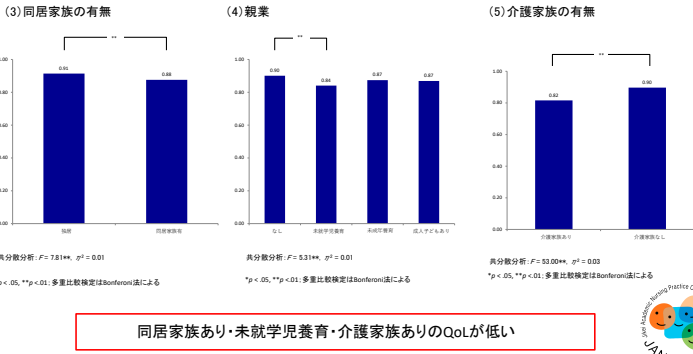
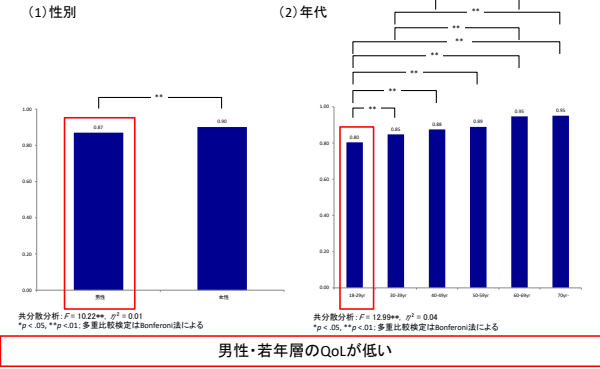
結果:回答者の属性

本研究の回答者			地域への関与		
属性			属性		
性別 (df=1, $\chi^2=3.21$, Cramer's V=0.05)			性別 (df=1, $\chi^2=11.50^{**}$, Cramer's V=0.09)		
男性	n	939	男性	n	710
	(%)	(61.78)		(%)	(46.71)
女性	n	583	女性	n	155
	(%)	(38.22)		(%)	(10.29)
年代 (df=5, $\chi^2=24.74^{**}$, Cramer's V=0.13)			年代 (df=5, $\chi^2=24.74^{**}$, Cramer's V=0.13)		
15-29yr	n	188	15-29yr	n	39
	(%)	(12.37)		(%)	(10.86)
30-39yr	n	273	30-39yr	n	45
	(%)	(17.96)		(%)	(13.86)
40-49yr	n	318	40-49yr	n	69
	(%)	(20.92)		(%)	(21.14)
50-59yr	n	386	50-59yr	n	91
	(%)	(25.39)		(%)	(28.00)
60-69yr	n	247	60-69yr	n	74
	(%)	(16.25)		(%)	(22.83)
70yr+	n	108	70yr+	n	38
	(%)	(7.11)		(%)	(11.86)
職業の有無 (df=1, $\chi^2=1.36$, Cramer's V=0.03)			職業の有無 (df=1, $\chi^2=1.36$, Cramer's V=0.03)		
就業者あり	n	906	就業者あり	n	688
	(%)	(59.61)		(%)	(58.80)
就業者なし	n	614	就業者なし	n	218
	(%)	(40.39)		(%)	(17.71)
同居家族の有無 (df=1, $\chi^2=1.83$, Cramer's V=0.04)			同居家族の有無 (df=1, $\chi^2=1.83$, Cramer's V=0.04)		
同居家族あり	n	231	同居家族あり	n	186
	(%)	(15.20)		(%)	(15.30)
同居家族なし	n	1289	同居家族なし	n	804
	(%)	(84.80)		(%)	(84.10)

ヘルスリテラシー:回答者の属性により差異が確認された項目



QOL:
回答者の属性によりに差異が確認された項目



結果:生活に関する不安や困りごとに関する自由記述

- 【自身の健康】
 - ・痛みに関すること(腰痛・肩こり等)
 - ・睡眠
 - ・メンタルヘルスに関すること
- 【子育て】
 - ・子育てが大変
 - ・保育園・幼稚園に通っていないので預け先がない
 - ・高齢出産で体力が追いつかない
- 【子育てと仕事】
 - ・仕事が忙しく子育てに時間がなかなか取れない
 - ・仕事と子育ての両立がうまくできるか不安
 - ・子どもが熱を出したときにあまり休めない
- 【家族の介護】
 - ・まだ介護は始まっていないが、近い将来家族の介護を考えると不安
 - ・離れている親の介護が不安
 - ・介護が大変・辛い・いつまで続くのか費用も心配
- 【家族の健康・疾患】
 - ・配偶者の認知症
 - ・母親に少しでもいいから運動をしてほしい
 - ・配偶者がヒステリー・統合失調症がある
- 【家族の加齢】
 - ・母親が老齢
 - ・父親が一人暮らし

考察

- 若年層のヘルスリテラシーが低い
- 就労、育児、ライフイベントが重なる世代であり、自身の健康に対する興味・関心が低い可能性



〈今後の活動の示唆〉
若年層が自身の健康と向き合い、健康について知り、健康維持できることをめざした活動が必要
→2024年度より本学学生を含む若年層が自身の健康と向き合うために「**プレコンセプションケア**」をテーマに行政、地域の大学、専門職等と共に活動に取り組む予定となっている

2023 年度 広報グループ活動報告

1. 部門構成メンバー

グループ長：佐竹澄子

メンバー：松永佳子、務臺理恵子、海老原樹恵

学事課：高橋実貴雄

2. 部門会議の開催数（日時）

随時メール会議、対面 2 回（9 月、2 月）

3. 活動の目的

JANP センターの活動に関する広告媒体を作成し、配布・配信することで、JANP センターの活動を広く周知する

4. 到達目標

- 1) 各部門の活動に関する広報物を作成する
- 2) JANP センターの HP のブラッシュアップを図る
- 3) JANP センターの活動を SNS や市報等を通じ、広く周知する
- 4) JANP センターの今後の広報の在り方を検討し、必要な広報を図る

5. 点検・評価

1) 現状と課題

- (1) 各活動内容が決定後、活動に関する広報物を検討し作成する

広報物については、10 月に開催した市民公開講座のフライヤーの作成を行った。みんなの保健室、慈恵結びの会、プレコンセプションケア学習会は、担当者によりフライヤーが作成された。次年度以降も各活動からの依頼に応じて、広報物の作成を検討していく。

- (2) JANP センターの HP のブラッシュアップを図る

大学広報委員会において、現在の HP の改訂を行っているため、大学広報委員会と連携をとり、HP 改訂を実施している。従来の HP をリニューアルし、JANP センターの概要説明のページの他に活動内容と実施報告をタイムリーに閲覧できるページに更新していく予定である。

- (3) JANP センターの活動を SNS や市報等を通じ、広く周知する

市民公開講座について、調布市、狛江市の広報誌への掲載依頼、HP への掲載を行った。また、みんなの保健室、慈恵結びの会、プレコンセプションケア学習会のフライヤーの HP への掲載、関係機関への周知を行った。全体的に広報期間が短めであり、特に市民公開講座の広報は周知が行き届かない状況であった。

また、プレコンセプションケア学習会については、実施報告を慈大新聞に投稿し学内、同窓生に周知することができた。

(4) JANP センターの今後の広報の在り方を検討し、必要な広報を図る

2023 年度は、JANP センターの取り組みとしてニーズ調査やプレコンセプションケア学習会の開催など新たな取り組みも始まった。学内外において、さらに JANP センターの周知が重要であり、JANP センターを周知していくため「ニュースレター」を作成し、配布していくこととした。また、HP の更新とともによりタイムリーに情報を発信していくシステムが導入できるように進めていく予定である。

2) 改善策

各活動の広報については、それぞれの担当者と調整しながらフライヤーの作成、配布、調布、狛江地区の広報誌への掲載、HP への掲載等を行っていく。特に次年度は学事課の担当者が変更となるため、学事課との密な連携を図る。十分な広報期間が確保できるように、4 月に年間のイベント実施予定に合わせた広報物の作成の目途を確認する。また、HP の更新を迅速に進め、JANP センターのリーフレットと合わせて HP の内容の検討も行う。ニュースレターを継続し、学内外への周知を促進する。

以上



地域連携看護学実践研究センター ニュースレター

vol.01

2024年3月発行
発行元：JANP Center
東京慈恵会医科大学
医学部看護学科内
Email: janp@jikei.ac.jp

2023年度の活動

センター長挨拶

東京慈恵会医科大学看護学実践研究センター センター長 高橋衣



東京慈恵会医科大学看護学実践研究センター（Jikei Academic Nursing Practice Center for the Community：JANPセンター）は、2018年に「地域住民の生きる力を看護の力で支える」ことを目指して設立しました。Academic Nursing Practiceは、看護学の発展とヘルスケアの質の向上を目的とし、教育、研究、臨床ケアの意図的な統合を意味しており、国内外の多くの看護系大学で機能を備え活動しています。JANPセンターは、慈恵第三病院看護部・慈恵第三健康推進センター・慈恵第三看護専門学校、さらに立地を生かし、調布市・狹江の自治体、近隣大学、地域住民の皆さん、在宅訪問看護ステーション等の専門職の皆さんと連携して活動しています。

JANPセンターは、「みんなの学び場」「みんなの活動」「みんなの保健室」の3つの部門と部門を支える「ニーズリソースマッチンググループ」「広報グループ」の2つのグループからなっています。2023年度は以下のような活動を実施しました。2024年度を中心とするテーマは、「若い世代の健康を支える」ことを目的として、「プレコンセプションケアの推進」です。本学看護学科、看護専門学校、大学院院生の皆さんの参加も大歓迎です。ともにつながりつつ、地域住民の生きる力を看護の力で支えていきましょう。

みんなの学び場

まなび場部門では、地域住民に向けた健康や医療に関する情報発信と学びの場の提供ならびに保健医療福祉専門職のニーズに応える情報発信や学びの支援を活動方針に掲げて活動しています。今年度は、「医療的ケア児とその家族の生活を支える在宅医療」をテーマとする講演会を、前田浩利氏（医療法人財団はるたか会理事長、あおぞら診療所新松戸院長）を講師に迎えて10月28日に開催しました。まなび場部門では2021年度より、在宅で生活する医療的ケアを必要とする子どもとその家族へのケアについて学ぶ場として「にじいろスマイルの会（小児在宅ケア）」の活動を始めました。本講座はその一環として企画しましたが、2021年に医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律（医療的ケア児支援法）が施行されるなど法的な整備が進む中、医療的ケア児が地域で生活するには地域共生の観点から住民の理解や協力が欠かせないことから、対象を専門職や支援関係者に限定せず、市民公開講座に位置づけて開催しました。当日は医療機関や訪問看護ステーションで勤務する看護師をはじめ、医師や地域の保健福祉関係者の他、関心のある市民の方にご参加いただきました。今後も地域住民や保健医療福祉専門職の学びのニーズに合わせた活動を目指します。

部門長 清水由美子

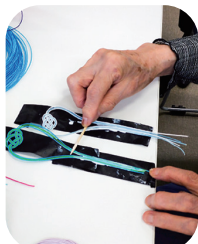


みんなの活動

部門長 梶井文子

大学のeラーニングによるボランティア掲示板を活用して、教員や学生への調布市・狛江市等のボランティア参加を延15回周知し、教員・学生のボランティア活動の推進につながっています。今年度から、学生へは、科目履修以外で、学生主体にボランティア活動に参加した場合には、「ボランティア活動証明書」を発行することになりました。

東京慈恵会医科大学附属第三病院健康推進センター・狛江市共催の「慈恵ガジュまる教室」には看護専門学校教員と看護学生が、同病院認知症疾患医療センターの「慈恵結びの会」(写真)へも看護学科教員、慈恵第三看護専門学校教員、看護学科学生がボランティアとして多くの方が参加しました。



慈恵結びの会(認知症カフェ)
ご本人もご家族も水引を使って楽しんでいます！



みんなの保健室

部門長 嶋澤順子

みんなの保健室は、身近な場所で気軽に健康相談できる場所として、多摩川住宅内一角をお借りして実施しています。保健師や看護師経験のある看護学科の教員が、簡単なヘルスチェック(血圧や体組成測定、握力測定による体力確認)と健康に関する何でも相談を行っています。健康診断結果の確認、病院受診前の疑問、定期的な健康確認、といった利用があります。赤ちゃんから高齢の方まで、どなたでもご利用いただけます。

2023年度は、多摩川住宅内の「みんなの部屋」をお借りして、概ね月1回で計9回定期的に開催しました。9月は慈恵医大看護学科4年生が実習として実施しました(写真)。2024年度は、多摩川住宅内で場所を替えて定期開催予定です。お気軽に、ぜひいらしてください。



ニーズリソースマッチンググループ

グループ長 志村友理

看護学科の教員4名と医学科教員1名の計5名で活動しています。今年度は2022年度から研究計画を立ててきた調布市・狛江市在住・在勤者のヘルスリテラシー、健康行動、QOLの横断調査を実施しました。1520名の方を対象に調査の結果をまとめています。今回の研究で20代～30代の若い世代のヘルスリテラシーが低く、コロナ禍を経てQOLについては先行研究とは異なる結果となりました。実施した横断調査の結果については、日本看護学教育学会第34回学術集会(大会長:東京慈恵会医科大学医学部看護学科教授 北素子)にて発表予定です。また地域の皆様にもわかりやすく結果をお伝えしたいと思っています。今後、調査結果の概要版をJANPセンターのホームページに掲載を致しますので、もう少しお待ちください。



グループメンバー

プレコンセプションケア

リーダー 松永佳子

「プレコンセプションケアを通じて地域がつながる」ことを目指した活動を開始しました。2023年11月に慈恵大学第三地区(病院、看護専門学校、看護学科)22名の有志が集い、プレコンセプションケアを提供するために「わたしたちにできること」をテーマに学習会を開催しました。また、3月には「若者の未来を支えるためにできること」をテーマに、調布市、狛江市にある大学の保健センターの臨床心理士、中高等学校の養護教諭、保健センター保健師、地域のクリニックの医師や助産師、ドラッグストアの薬剤師などを対象としたプレコンセプションケアの学習会(交流会)を行いました。「未来を担う若者」をどのように支えられるかについて、【資源】の見える化のためのマッピングを行いました。その結果、顔の見える関係を築く一歩となりました。



3月の学習会

プレコンセプションケア 活動報告

1. プレコンセプションケア担当者

責 任 者：松永佳子

メンバー：高橋衣、北素子、嶋澤順子、梶井文子、清水由美子、佐竹澄子、志村友理、
佐藤紀子（コアメンバー会議メンバー）

学 事 課：高橋実貴雄

2. 活動の目的

プレコンセプションケアに関する学習会を通してそれぞれ（みんな）がプレコンセプションケアを理解し、地域で新たに専門家がつながるきっかけができることで、地域の若者の健康の向上につなげる。

3. 活動目標

- 1) プレコンセプションケア普及に向けた学習会を開催する。（2回）
- 2) 学習会を通してプレコンセプションケアに関する課題を明らかにし、2024年度の実装に向けた準備を行う。
- 3) ニーズリソースマッチンググループと連携を図り、調布市、狛江市の課題を明らかにする。
- 4) プレコンセプションケアの学習会に向けて、第三病院、調布市、狛江市の医療機関、教育機関との連携を図る。
- 5) プレコンセプションケア普及に向けた活動について広報を行う。

4. 点検・評価

1) 活動内容と課題

(1) プレコンセプションケア普及に向けた学習会の開催

慈恵大学第三地区の職員を対象とした学習会を11月、調布市、狛江市の医療機関、教育機関等の職員を対象とした学習会を3月に実施した。学習会を通して、2024年度の実装に向けた準備を行うことができた。また、プレコンセプションケアの対象、ケアの提供方法、ケアを提供するうえでの課題を明らかにすることができた。

(2) 学習会を通してプレコンセプションケアに関する課題を明らかにし、2024年度の実装に向けた準備

上記、学習会を通して、幼児期から子育てをする（中高生の子どもを含む）世代への啓発活動、相談事業、必要な場合は医療機関に繋げることの必要性が明らかとなり、2024年度の実装のためのメンバーの募集を行った。

(3) ニーズリソースマッチンググループと連携を図り、調布市、狛江市の課題の抽出

ニーズリソースマッチンググループが実施する調査の質問紙にプレコンセプションケアに関する変数を追加してもらうことで、調布市、狛江市の女性の月経に関する課題を明らかにすることができた。

(4) プレコンセプションケアの学習会に向けて、第三病院、調布市、狛江市の医療機関、教育機関との連携

3月に実施した学習会の開催にあたり、近隣の医療機関、教育機関との連携を図るきっかけを作ることができた。2024年度の実装に向け、プロジェクトグループを立ち上げてさら

なる連携を図る。

(5) プレコンセプションケア普及に向けた活動について広報

HP、慈大新聞、THE JIKEI への活動の報告、学習会のフライヤーの送付を通して、本活動について報告することができた。24 年度は実装に関する報告をできるように活動内容をモニタリングする。

2) 改善策

プレコンセプションケア普及事業の位置づけをコアメンバー会議とすることで、概ね計画通りに活動を実施することができた。活動にあたっては、センター長を中心に地域連携に、学事課を中心に広報活動を行うことができた。次年度は実装となる。評価指標を早期に検討し、年度末には短期目標の達成の評価を行う。

以上

地域連携看護研究実践センター
慈恵大学第三病院看護師と看護学科教員との
プレコンセプションケア学習

参加者募集



日時：11月13日（月）17:30～

場所：看護学科：第2講義室（3階）

当日の流れ

ミニレクチャー

グループワークのテーマ「私達にできること」

GW1：まずは同僚と

GW2：ミックスメンバーで

GW3：再び同僚と

Let's Join Us!

申し込み期限：11月8日（水）

申し込みForms：

<https://forms.gle/aG8FQ3ajyrBtfM6B6>





東京慈恵会医科大学
地域連携看護学実践研究センター

プレコンセプションケア学習会

プレコンセプションケアとは、若い世代の男女を対象とした
将来の健康、次世代の健康をより良くするためのヘルスケアです

学習会の目的

若者の将来の健康のために地域の「みんな」でできることを考える



対象：狛江市・調布市在勤・在住の方など

日時：2024年3月8日（金）

17:30～19:00

場所：東京慈恵会医科大学国領キャンパス

看護学科:1階大講堂

申し込み期限：3月7日（木）

申し込み方法

右記QRコードあるいは下記URLより

： <https://forms.gle/JGY8VRn7YSGAVzha7>



お問い合わせ：東京慈恵会医科大学地域連携看護学実践研究センター
担当：松永佳子 yoshiko.matsunaga@jikei.ac.jp

プログラム

- 17:10 受付
- 17:30 開会 センター長挨拶
- 17:40 プレコンセプションケアとJANPセンターの構想
- 18:15 身近な課題の抽出（個人ワーク）と共有
- 18:25 身近な資源のマッピング（グループワーク）
- 18:50 わたしたちにできること
- 18:55 閉会

2023 年度も学生応援フードパントリー調布を支援する活動を行いました。

支援金募金活動

1. 2023 年 7 月 8 日開催

第 8 回学生応援フードパントリー調布 募金額 20,000 円

2. 2023 年 10 月 28 日開催

第 9 回学生応援フードパントリー調布 募金額 11,400 円

3. 2024 年 2 月 17 日開催

第 10 回学生応援フードパントリー調布 募金額 10,530 円



第10回 学生応援フードパントリー調布

●本企画の主旨

2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症へ移行し、当フードパントリーの在り方を見直す時期となりました。しかしながら、アンケート調査から、生活がより苦しくなった、苦しい状況が続いていると回答する人が多くを占める結果となり、まだまだ経済的にも精神的にも厳しいままである学生さんが多くいることがわかりました。これからの時代を担う学生さん達に安心して学びを継続して頂けるよう、引き続きフードパントリーを開催し「食」から応援します！

○受 取 日 2024 年 2 月 17 日（土） 13 時～17 時

○受取場所 電気通信大学 アフラックホール UEC（講堂）ロビー
所在地：182-8585 調布市調布ヶ丘 1-5-1 正門を入れて右手の建物  会場アクセス

○対 象（申込制 先着 70 名）

- ・経済的な影響を受けて生活に不安があり、次の①または②に該当する学生
- ① 調布市に所在地のある大学または専門学校に通っている。
- ② 調布市に住んでいて、調布市以外に所在地のある大学または専門学校に通っている。

○お渡しするもの

- ・2 日（6 食分）分に相当する食料品、米 2kg など（予定）

○応募方法（申込開始 2 月 5 日（月） 20 時より）

- ・下記 URL または QR コードより申し込んでください。

<https://forms.gle/BxP63GPrp96K29ea8>

○当日

- ・大きめのエコバックをご持参ください。
- ・アレルギーや宗教対応はしていませんので、当日、ご自身でご確認ください。
- ・受取り会場にて、社会福祉協議会職員が生活上の困りごとなどの悩みに寄り添います。

【問合せ先】
調布健康支援プロジェクト実行委員会 事務局
メール：gakuseiouen.chofu@gmail.com
電 話：080-7940-5526（電気通信大学大河原研究室）



主催：調布健康支援プロジェクト実行委員会
後援：電気通信大学
協力：昭和女子大学黒谷研究室 調布市子ども食堂ネットワーク 語ろうアースカフェ
調布市社会福祉協議会（調布ライフサポート、地域福祉コーディネーター）